

## これまでの盛岡広域圏経済戦略策定懇話会において出された意見

## 1 第1回懇話会

- (1) 日時 平成26年9月1日（月）16時00分から
- (2) 場所 岩手県民会館第2会議室
- (3) 主な意見
  - ・台湾・韓国からの外国人観光客が増えているが、今までは納得していたものを納得されないという方が増えている。例えば朝食で出しているコーヒーについて、ある程度高い地位の方だと、「もう少し質の良いものを出してくれ」と要望される場合が増えてきている。
  - ・スキー客が減っていることや企業イベントで敬遠される理由のひとつとして、交通費の問題がある。
  - ・求人数が圧倒的に県外、特に首都圏からの求人数が増えていることを背景に、昨年までは、地元志向が強かった学生が首都圏志向に変わってきている。人材採用の競争に県内企業が負けてしまっているのではないかと懸念している。
  - ・産直施設の課題は、高齢化や後継者不足である。
  - ・六次産業化については、いろいろチャレンジしているが、作ることは何とかなっても、販売の問題が大きい。六次産業と簡単に言うが、そんなに甘いものではない。
  - ・「IT」業界では、商品をどう売るかという広告との連携がアメリカなどでは普及しており、日本では2～3年遅れてくるというように言われている。地方でもやれる仕事だと思うので、マーケットに対して正しくアプローチできれば首都圏に対抗できると思う。
  - ・スマートフォンやSNSを活用して、今日獲れたものをすぐに発送するということをやっている事業者がいて、一次産業者もすごく活発になってきているが、それを使える・使えないで大きく差があると感じる。

## 2 第2回懇話会

- (1) 日時 平成26年10月28日（月）13時30分から
- (2) 場所 ホテルブライトイン盛岡3階月桂樹
- (3) 主な意見
  - ・I L Cは盛岡広域圏に大きなインパクトを与えると思う。外国人研究者

は「群れない」と聞いており、盛岡広域圏への居住も十分に考えられると考える。

- 地元出身の人を極力雇用するということを含めて、人口減を何とか食い止めることを、産学官連携でやっていくことが、今こそ大事である。
- 事業主には、本当に女性が働きやすい場所やシステムを作っていたかかないと、女性たちは仕事を継続していけない状況にある。
- 盛岡広域経済圏のストロングポイントの一つは、専門学校がたくさんあることだと思う。八戸・大曲、岩手県南部などから仙台へ行かせないように、新幹線通学をさせるなどにより、就学人口を増やせば、その後の学生が就職していく機会も増えていくのではないかと思う。
- 公衆無線LANがないところには、外国人観光客は来ないと思っていたほうが良い。
- その土地のことを知っている方が、好きで情報発信できるような広告システムを作られれば良いと考えている。それが、その土地に住んでいる主婦の方であって、働ける時間帯だけ来ていただくということができればと思っているが、雇える体力がないので、そこを補助していただけるとありがたい。
- ITシステムのプログラムの受託開発ビジネスが雇用の創出という点で著しい成果を収めているが、顧客から要求された仕事が出来上がって納品してお金はいってくるまで、7ヶ月から1年、2年かかる。その間ずっと人件費を先行して払っていかないといけないので、軌道に乗るまでの資金繰りが厳しい。うまく社会ぐるみで支援するような仕組みができるといい。
- 盛岡広域圏は、食材の宝庫。観光とどう結び付けるかが今後の課題かと思う。